

## 2 落葉果樹

### 1) ぶどう

#### (1) 巨峰

10a あたり (当初植栽数 40 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合 (%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		3 月中・ 下旬	6 月中旬	8 月下～ 9 月中旬	11 月下～ 12 月上旬
—	2	2	2	2	※40%を3月中・下旬～7月中旬 にかけて3～4回に分施する。			60
—	3	3	3	3				60
250	4	5	5	4		30	30	40
500	5	6	6	5		30	30	40
900	7	8	8	6		30	30	40
1,100	8	10	10	7		30	30	40
1,200	9	10	10	8 以上		30	30	40

注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

2) 徒長気味の樹で施肥量を減らすか、6～9月施肥を2回程度に分施する。

#### (2) デラウェア

10a あたり (当初植栽数 42 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		3 月中・ 下旬	5 月下 旬	8 月中 旬	10 月 上旬	11 月下～ 12 月上旬
—	4	3	4	2	※40%を3月中・下旬～7月中旬にかけ て3～4回に分施する。				60
—	8	6	7	3					60
250	12	9	10	4		10	20	10	60
500	13	10	11	5		10	20	10	60
850	15	11	12	6		10	20	10	60
1,200	16	12	13	7		10	20	10	60
1,300	17	13	14	8 以上		10	20	10	60

注1) 結果枝長は65cm以上を目標とし、これ以下の園では着果量を少なくするとともに元肥を中心に20%程度まで増肥する。

2) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

#### (3) ピオーネ

10a あたり (当初植栽数 21 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)			備考
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		5 月	9 月	11 月	
—	1	2	2	植栽時		30	70	
—	2	4	4	2 年	30	30	40	
500	4	5	7	3 年	30	30	40	
1,500	8	5	7	4 年以上	30	30	40	

注) 堆きゅう肥 4t/10a を投入の基準とする。

(4) マスカット・ベリーA

10aあたり(当初植栽数 42本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		3月中・ 下旬	6月中旬	9月中旬	11月下～ 12月上旬
—	4	3	4	2	※40%を3月中旬～7月上旬にか けて3～4回に分施する。			
—	8	6	7	3				
300	11	9	10	4		15	25	60
600	13	10	11	5		15	25	60
1,100	15	11	12	6		15	25	60
1,600	17	13	14	7		15	25	60
2,000	19	14	15	8以上		15	25	60

注) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

(5) ハウス(前進栽培)デラウェア

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		落花 直後	収穫 直後	収穫 45日後	11月 上・中旬
800	15	11	12	6	10	20	10	60
1,000	16	12	13	7	10	20	10	60
1,100	17	13	14	8以上	10	20	10	60

注 1) 上記成分量を生育ステージに合わせて施肥する。

2) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

3) 肥効を高めるため適正な灌水を実施する。

2) なし

(ア) 慣行化成肥料を使用する場合

(1) 幸水

10aあたり(当初植栽数 82本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月 下旬	5月 上旬	8月 下旬	9月 下旬	12月 上旬
—	10	7	8	2	※60%を2月上旬～7月上旬にかけて				
—	13	9	10	3	3～4回に分施する。				
300	16	11	13	4	15	15	15	15	40
800	19	13	15	5	15	15	15	15	40
1,300	22	15	18	6	15	15	15	15	40
1,800	25	17	20	7	15	15	15	15	40
2,100	27	19	21	8	15	15	15	15	40
2,700	28	20	22	10	15	15	15	15	40
3,000	29	21	23	12以上	15	15	15	15	40

注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

## (2)豊水

10a あたり (当初植栽数 82 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)					
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月 下旬	5月 上旬	9月 下旬	10月 中旬	12月 上旬	
—	10	7	8	2	※60%を2月下旬～7月上旬にかけて					40
—	16	11	12	3	3～4回に分施する。					40
350	21	15	17	4	15	15	15	15	40	
900	25	18	20	5	15	15	15	15	40	
1,500	27	19	22	6	15	15	15	15	40	
2,100	29	20	23	7	15	15	15	15	40	
2,600	30	21	24	8	15	15	15	15	40	
3,400	32	22	25	10	15	15	15	15	40	
4,400	33	23	26	12以上	15	15	15	15	40	

注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

## (3)二十世紀

10a あたり (当初植栽数 82 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)					
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月 下旬	5月 上旬	8月 下旬	9月 下旬	12月 上旬	
—	8	5	6	2	※60%を2月下旬～7月上旬にかけて					40
—	10	7	8	3	3～4回に分施する。					40
300	12	9	10	4	20	10	15	15	40	
800	14	10	12	5	20	10	15	15	40	
1,300	16	12	14	6	20	10	15	15	40	
1,900	18	13	15	7	20	10	15	15	40	
2,400	20	14	16	8	20	10	15	15	40	
3,200	22	16	18	10	20	10	15	15	40	
3,500	24	17	19	12以上	20	10	15	15	40	

注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

## (4)新高

10a あたり (当初植栽数 82 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)					
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月 下旬	5月 上旬	7月 上旬	10月 中旬	12月 上旬	
—	12	8	10	2	※60%を2月下旬～7月上旬にかけて					40
—	18	13	14	3	3～4回に分施する。					40
350	23	16	18	4	15	15	15	15	40	
900	27	19	22	5	15	15	15	15	40	
1,500	29	20	23	6	15	15	15	15	40	
2,300	31	21	24	7	15	15	15	15	40	
3,100	32	22	25	8	15	15	15	15	40	
4,100	34	24	27	10	15	15	15	15	40	
4,500	35	25	28	12以上	15	15	15	15	40	

注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

(イ) 肥効調節型肥料を使用する場合

施肥の省力化のために、肥効調節型肥料 140 日溶出型たとえばエコロング 424M140type(N 14%、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 12%、K<sub>2</sub>O 14%)等を N 成分で慣行年間施肥量の約 80%を 11 月上旬に施用する。

(ウ) 低成分肥料を使用する場合

リン酸、カリ成分が土壤に蓄積した園地では、施肥のコスト低減のために、リン酸、カリ成分を低減した L 型肥料たとえば園芸複合 846 (N 18%、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 4%、K<sub>2</sub>O 6%)等を N 成分で慣行施肥と同量を同時期に施用してもよい。ただし、定期的に土壤、樹体の栄養診断を行い、不足することがないように注意する。

3) もも

(1) 共台

10a あたり (当初植栽数 48 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齢 (年)	施用時期別割合(%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2 月下旬～ 3 月上旬	5 月中旬	8 月下旬	11 月 ～12 月
—	4	2	3	2	※60%を 2 月中旬～7 月上旬にか けて 3～4 回に分施する。			
—	5	3	4	3				
80	7	5	6	4	15	15	20	50
300	9	6	7	5	15	15	20	50
700	11	7	9	6	15	15	20	50
1,100	13	9	11	7	15	15	20	50
1,500	15	11	13	8	15	15	20	50
2,000	17	12	14	10 以上	15	15	20	50

- 注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。  
 2) ハウス (前進) 栽培では全量を 20%減じ、元肥体系とし、10 月上・中旬と 11 月中・下旬に早めに分施する。  
 発芽期の追肥は行わない。  
 3) 5 月中旬 (結実確定後) の追肥は早生種及びハウス栽培では収穫後に施す。

(2) わい性台

10a あたり (当初植栽数 125 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齢 (年)	施用時期別割合(%)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2 月 下旬	4 月 下旬	7 月～ 8 月	9 月 月上旬	12 月 月上旬
—	8	5	6	2	※60%を 2 月下旬～7 月上旬にかけて				
120	11	7	9	3	4 回に分施する。				
700	14	8	11	4	15	15	15	15	40
1,300	16	9	13	5	15	15	15	15	40
1,700	18	10	14	6	15	15	15	15	40
1,900	19	11	15	7	15	15	15	15	40
2,000	20	12	16	8 以上	15	15	15	15	40

- 注 1) 堆きゅう肥 4t/10a を投入の基準とする。

4) くり

10a あたり (当初植栽数 42 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		3月上旬	6月上・ 中旬	9月上・ 中旬	11月中 ~12月上旬
—	4	2	3	2	※60%を6月中旬~7月上旬にか けて2~3回に分施する。			
—	5	3	4	3				
20	6	4	5	4	20	15	15	50
60	8	5	6	5	20	15	15	50
140	13	8	10	6	20	15	15	50
220	17	10	13	7	20	15	15	50
300	20	12	15	8	20	15	15	50
420	23	15	17	10	20	15	15	50
450	25	16	19	12以上	20	15	15	50

- 注 1) 安価な有機物を多量(4t/10a)投入する。  
2) 適正 pH(H<sub>2</sub>O)値は 5.0~5.5 で、石灰飽和度も他の落葉果樹の適正值以下。

5) うめ

10a あたり (当初植栽数 48 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		3月 下旬	4月下 ~5月 上旬	6月下 ~7月 上旬	8月下 ~9月 上旬	11月 下~12 月上旬
—	3	2	3	2	15	※35%を4月下旬~7月上旬に かけて3~4回に分施する。			
—	5	3	4	3	15				
50	7	4	6	4	15	20	20	15	30
150	8	5	7	5	15	20	20	15	30
350	10	6	9	6	15	20	20	15	30
650	12	7	11	7	15	20	20	15	30
1,000	14	8	12	8	15	20	20	15	30
1,600	18	10	16	10	15	20	20	15	30
2,000	21	12	18	12	15	20	20	15	30

- 注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。  
2) 4月下~5月上旬の追肥は結果量によって加減する。結果量が多い場合はやや早めに施す。

6) すもも

10a あたり (当初植栽数 82 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)				
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月 下旬	4月 上旬	5月 中旬	7月 下旬	11月 上旬
—	7	5	6	2	※60%を2月下旬~7月上旬にかけて				
—	9	6	7	3	2~3回に分施する。				
100	11	7	9	4	15	15	15	15	40
300	12	8	10	5	15	15	15	15	40
600	13	9	11	6	15	15	15	15	40
1,000	14	10	12	7	15	15	15	15	40
1,400	15	11	13	8	15	15	15	15	40
1,900	17	12	14	10	15	15	15	15	40
2,000	18	13	15	12以上	15	15	15	15	40

- 注 1) 堆きゅう肥 3t/10a を投入の基準とする。

## 7) キウイフルーツ (ハイワード)

10a あたり (当初植栽数 30 本)

目標収量 (kg)	成分量			樹齡 (年)	施用時期別割合(%)			
	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O		2月下～ 3月上旬	5月中・ 下旬	9月上旬	10月下 ～11月中旬
—	4	3	3	2	※50%を2月下旬～7月上旬にか けて2～3回に分施する。			
—	7	4	5	3				
40	10	6	8	4	20	20	10	50
1,100	14	7	11	5	20	20	10	50
1,900	17	10	14	6	20	20	10	50
2,300	20	12	16	7	20	20	10	50
2,500	22	13	18	8以上	20	20	10	50

注 1) 5月の施用は果実肥大への影響が大きいため、樹勢をみて20%以内量を施す。遅伸びは肥大を悪くするので注意する。

2) 9月上旬の追肥は樹勢をみて10%程度施す。

## 8) 施肥上の留意点

- (1) 施肥量は土壌の特性、肥沃度に応じて加減する。
- (2) 苦土石灰は元肥施用の30～20日前とし、土壌とよく混和する。
- (3) 元肥は肥効が持続するよう緩効性肥料を合わせて施用するのが望ましい。
- (4) 追肥は新梢の伸長状況等樹勢を見て施用し、時期を失しないようにする。
- (5) 礼肥は、その年の収量、樹勢を見て施用する。
- (6) 幼木期間(未結果果樹期間)は追肥の分施を励行し、早期樹冠拡大に努める。また、施肥の省力化のために、肥効調節型肥料140日溶出型たとえばエコロング424M140type(N14%、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>12%、K<sub>2</sub>O14%)等をN成分で慣行年間施肥量の約80%を11月上旬に施用する。
- (7) 堆きゅう肥等有機物の施用は秋(10月中～11月中旬)施用とし、同時に深耕を実施する。詳細は第2章を参照する。
- (8) 微量要素の補給、塩基バランスに留意する。
- (9) リン酸、カリ成分が土壌に蓄積した園地では、施肥のコスト低減のために、リン酸、カリ成分を低減したL型肥料たとえば園芸混合846(N18%、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>4%、K<sub>2</sub>O6%)等をN成分で慣行施肥と同量を同時期に施用してもよい。ただし、定期的に土壌、樹体の栄養診断を行い、不足することがないように注意する。